

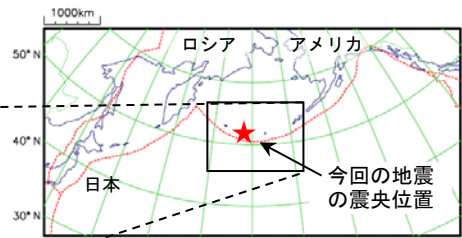
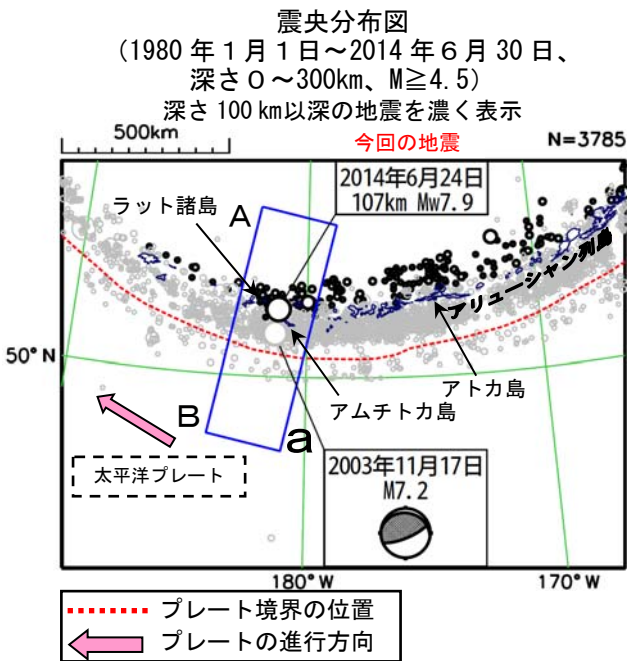
# 6月24日 アリューシャン列島ラット諸島の地震

2014年6月24日05時53分（日本時間、以下同じ）に、アリューシャン列島ラット諸島の深さ107kmでMw7.9の地震が発生した。今回の地震の震源付近は太平洋プレートが北米プレートの下に沈み込んでおり、今回の地震は、沈み込む太平洋プレートの内部で発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ型である。

気象庁は、この地震について、同日06時30分に遠地震に関する情報（日本国内向け、「日本への津波の有無について現在調査中です。」）を、同日07時31分には（この地震による日本への津波の影響はありません。）を発表した。

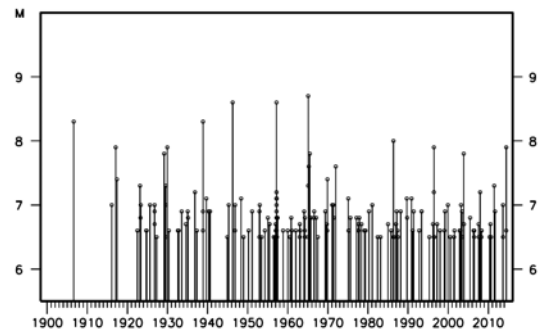
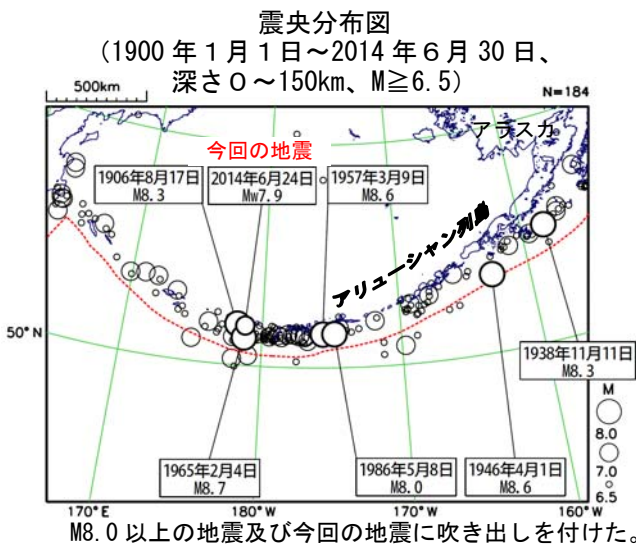
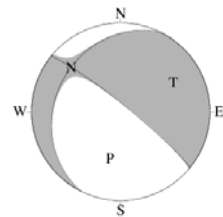
この地震により、米国アラスカ州のアムチカで17cm、アトカで12cm、米国ハワイ州のカフルイで10cmなどの津波と考えられる弱い海面変動を観測した。国内では、青森県八戸港（国土交通省港湾局）で10cm、北海道浜中町霧多布港（国土交通省港湾局）で8cmの津波と考えられる弱い海面変動を観測した。

1900年以降の地震活動を見ると、アリューシャン列島では、M8.0以上の地震がしばしば発生している。このうち、1906年8月17日に今回の地震の震源付近でM8.3の地震が発生した。また、1965年2月4日にM8.7の地震が発生し、アリューシャン列島のシェミア島で10m、ハワイのカウアイ島北岸で1.1m、日本国内では八戸で48cmなど、太平洋沿岸で津波が観測された（「日本被害津波総覧」による）。



領域a内の断面図 (A-B投影)

今回の地震の発震機構  
(気象庁によるCMT解)



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。2003年11月17日の地震の発震機構はGlobalCMTによる。その他の震源要素は、1900年から2009年までは国際地震センター（ISC）、2010年以降は米国地質調査所（USGS）による。海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁（NOAA）による（6月30日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird (2003) \*より引用。

\*参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

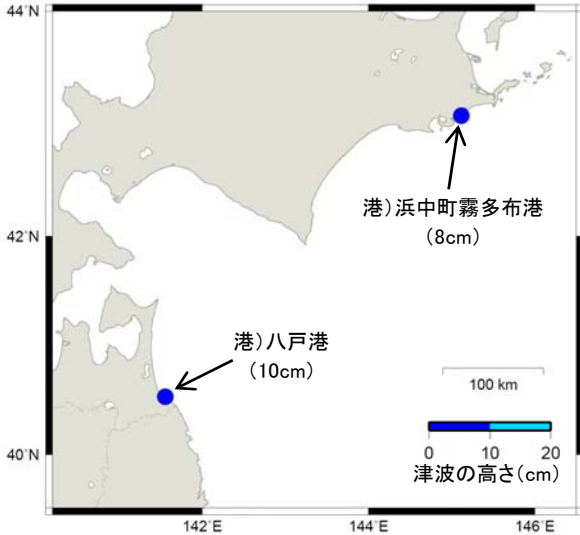
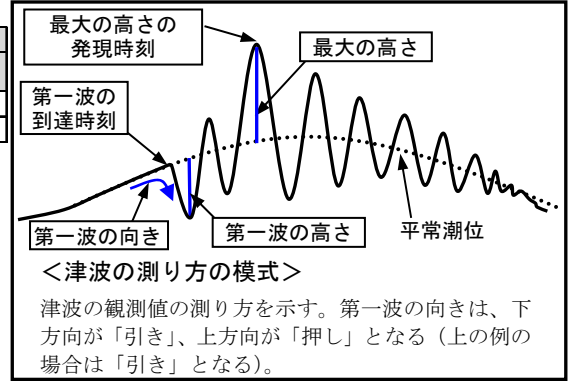
気象庁作成

# 津波の観測状況

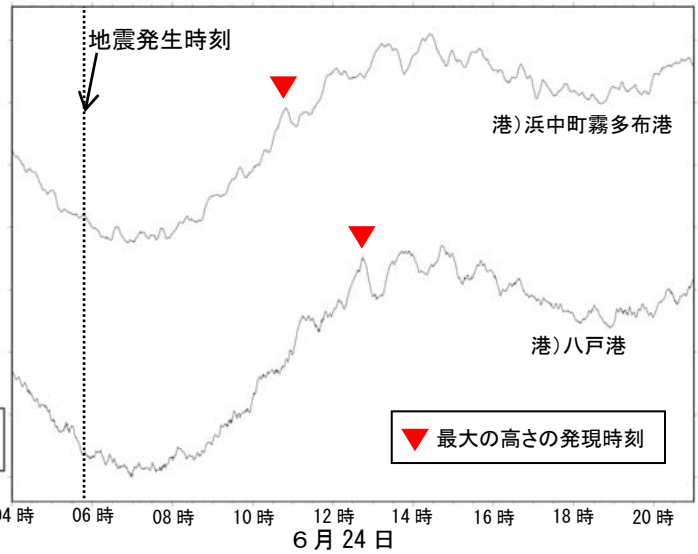
## 国内の津波観測施設の津波観測値

都道府県	津波観測施設名	所属	第一波		最大波	
			到達時刻	高さ(cm)	発現時刻	高さ(cm)
北海道	浜中町霧多布港	国土交通省港湾局	24日 -	-	24日 10:50	8
青森県	八戸港	国土交通省港湾局	24日 -	-	24日 12:45	10

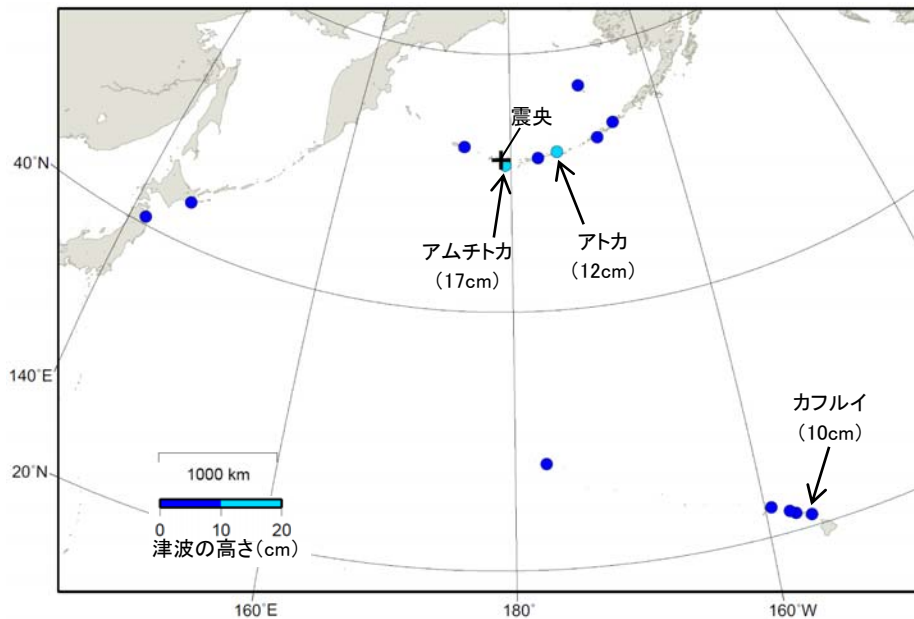
※観測値は後日の精査により変更される場合がある  
 ※所属機関の観測波形データをもとに気象庁が検出した値  
 - は、津波波形が明瞭でないため値が決定できないことを示す



国内の津波観測施設で観測した津波の最大の高さ  
 ※ 港) は国土交通省港湾局の所属であることを表す



国内の津波観測施設で観測した潮位波形



海外の津波観測施設で観測した津波の最大の高さ

(最大の高さ 10cm 以上を観測した地点については観測施設名を表記)

※海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁 (NOAA) による (7月4日現在)